

環境コミュニケーション大賞（環境報告書部門） 持続可能性報告 採点表（平成 26 年版）

社会的な取組も含め、サステナビリティに重点をおいた環境報告を、斬新かつ具体的な数値目標を示して取組を進める企業であって、その取組を社会に広く伝える工夫を行っている最も優れた報告書を、特に下記の視点等で選考する。

（環境報告書としてすぐれたものについて、下記のガバナンス、経済・社会観点等で評価する。）

- | | |
|--|--------|
| 1) 経営者コミットメントと仕組み(ガバナンス) | Max 30 |
| 1. サステナビリティの認識および経営責任者のコミットメント | Max 9 |
| 「3」 サステナビリティについて深い認識が表明されており、持続可能な社会形成とバリューチェーン全体を考慮した環境経営とその戦略についての確実なコミットメントと、経営資源配分等の約束が入っている、等 | |
| 「2」 環境以外についてのコミットメントはあっても抽象的である、企業の持続可能性の認識はしめしているが、社会の持続可能性認識にまでは広がっていない、等 | |
| 「1」 地球環境問題等一般論を述べておりコミットメントが明確でない、サステナビリティを狭く解し、環境技術開発的発想にとどまっている、等 | |
| 「0」 コミットメントなし | |
| 2. 低炭素社会への言及 | Max 7 |
| 「3」 1.とあいまって、低炭素社会を認識し、それに達する自社の 2050 年、2020 年代ビジョン・計画を明確にしている、等 | |
| 「2」 低炭素社会を認識し、それに対する自社の方針策定に着手していることを明言している、等 | |
| 「1」 低炭素社会は認識しているが、自社としてどうするかが明確ではない、等 | |
| 「0」 記載なし | |
| 3. CSR マネジメント体制の構築等 | Max 7 |
| 「3」 CSR 推進体制を明確にし、グループ全社的に動かす仕組みが詳細に記載されている、等 | |
| 「2」 CSR 推進体制を構築しているが、グローバルな推進体制にはいたっていない、等 | |
| 「1」 CSR 推進体制の構築の必要性が認識されている、等 | |
| 「0」 記載なし | |
| 4. VCM（バリューチェーン・マネジメント）に対する著しい取組 | Max 7 |
| 「3」 一次納入業者に限らずバリューチェーン全般にわたる VCM の方針を明確に掲げ、実現へのプロセスや実績をあげ公開している、等 | |
| 「2」 一次納入業者に対する VCM の方針が掲げられ、実施体制や実績が公開されている、等 | |
| 「1」 部分的な数字や定性的記述が記載されている、等 | |
| 「0」 記載なし | |

2) 社会・経済的側面に関わるマテリアリティ原則の適用 Max 10

- 「3」 マテリアリティ原則を認識し、選択プロセスも公開している、等
- 「2」 マテリアリティに該当するものを明示している、等
- 「1」 マテリアルと考えていることがうかがえる内容が記載されている、等
- 「0」 記載なし

3) 社会・経済的側面に関わる内容 Max 40

社会的側面 Max 30

1. 人権 Max 6

- 「3」 ILO 重点4分野だけでなく世界人権宣言等の精神を正しく理解し、バリューチェーンに対するデューデリジェンス・プロセスを構築して取り組んでいる、等
- 「2」 ILO 重点4分野に止まっている、等
- 「1」 同和対策等、差別対策、セクハラ、パワハラに限られている、等
- 「0」 記述なし

2. 労働慣行 Max 6

- 「3」 雇用の創出、従業員の健康・安全、ワーク・ライフバランス、多様性と機会、等々幅広く数値データとともに開示、等
- 「2」 雇用の創出、従業員の健康・安全、ワーク・ライフバランス、多様性と機会、等々についてそれなりの記述がある、等
- 「1」 上記について記述はあるが断片的、等
- 「0」 記述なし

3. 公正な事業慣行 Max 6

- 「3」 公正取引についての方針等を開示し、全世界で展開していることが分かる情報開示がある、等
- 「2」 国内の記述はある、等
- 「1」 定性的に考え方を述べているに止まっている、等
- 「0」 記述なし

4. 消費者課題 Max 6

- 「3」 全製品に対して製品責任を明確にする方針・仕組みが開示されており、顧客満足度や消費者課題等の調査、対応策の策定等もなされている、等
- 「2」 メイン製品について方針仕組みが開示されている、等
- 「1」 定性的な考え方を述べるにとどまっている、等
- 「0」 記述なし

5. コミュニティ参画及び開発 Max 6

- 「3」 操業地全域で地域社会との交流があり協働での活動も多く、地域開発にも取組がある、等

- 「2」 国内での交流と協働が主、等
- 「1」 お祭り等のイベントでの交流レベル、等
- 「0」 記述なし

経済的側面

Max 10

1. 財務報告を超えた経済的側面の開示、および指標等についての工夫等 Max 5

- 「3」 財務を超えた持続可能性についての経済的側面について指標を工夫し、豊富な記述を記載している、等
- 「2」 上記の一部や経済効率等についての記載あり、等
- 「1」 定性的に若干の記載あり、等
- 「0」 記述なし

2. 融投資にあたってのサステナビリティ配慮や、自らが保有、あるいは運用する年金の ESG 評価、株主としての対話等の状況、等 Max 5

- 「3」 上記についての明確な方針と実績についての記載あり、等
- 「2」 上記の一部の実績についての記載あり、等
- 「1」 上記について定性的な記述の記載あり、等
- 「0」 記述なし

4) ステークホルダー・コミュニケーション(エンゲージメント)への取組(除く、環境) Max 10

- 「3」 ステークホルダー・エンゲージメントを CSR の中心にすえ、社会の期待への配慮がコミットされ、方針と実績が示され、会社側の対応まで記載されている、等
- 「2」 地域のみならず、多様なステークホルダーとのステークホルダー・コミュニケーションが実施されており、会社側の反応も記載されている、等
- 「1」 考え方や、地域との交流等、取組の記載あり、
- 「0」 記述なし

5) 総合評価

Max 10

上記全体を総合勘案し、かつ独自の創意工夫や先導的な試み等も考慮し、総合評価する。

ほとんどが CSR レポートにかわり、内容も充実してきているが、社会性側面については概ね下記のような考え方である。

- 「3」 大変すぐれている：万遍なく豊富なデータを開示し、数値情報化にも多くの努力をし、説明を加えている。
- 「3」 普通：一応万遍なく情報が提示され一部数値情報も提示されている。
- 「3」 劣っている：部分的な情報開示であり、ほとんど定性的記述にとどまっている。
- 「3」 記述なし

以上